

事例No 4

「小規模事業所によるICT利活用・業務改善事例！」

事業所概要

地域：札幌市

介護サービスの種類：小規模多機能型居宅介護

事業開始年月：2007年

従業員数：28名（うち正社員11名）（R7.3現在）

支援に至る背景と課題

* 介護請求・介護記録とも、電子化されておらず、手書き運用が中心の介護事業所で、「小規模な事業所でも生産性向上に取り組めるのか？」との不安による相談からの支援開始でした。

* 事業規模から見てもより高額なICT機器購入は現実的ではなく、現場職員の雰囲気として「今のままの運用で良いのでは？」との否定的な意見もあり、何から取り組むべきかお悩みのご様子でした。

* また過去に移乗支援機器を検討し、プロジェクトとして頓挫した経験があり、「一生懸命、頑張っても失敗してしまうのでは」との懸念・不安の御様子でもありました。

* コストパフォーマンスを意識しながら、ICT機器の選定に関する情報提供、ケアの質の向上に繋がる直接介護業務の運用ルール見直しなどを業務アドバイザーの支援により、取組開始しました。



支援内容

* 当初は補助金活用を視野に入れた介護記録ソフト導入検討が実施されましたが、結果的に補助金は不採択となったものの、事業規模に見合ったランニング費用である介護記録ソフトの選定につながりました。

* 介護記録ソフトの運用開始前の事前準備として、「現在、紙運用で行っている業務が、これから導入を予定されている介護記録ソフトの“どの画面入力”に置き換わるのか」生産性向上委員会を通してじっくり議論されました。

* また職場環境改善の推進として、職員やご利用者様が使用する記録にかかる時間短縮と効率化により、ケアの質の向上をはかりたい！

* エプロンが畳んだ状態ですぐ誰の物か判別できるように、洗濯バサミでタグ付けすることや、雑然とした記録物をレターケースの活用により整理するなど、改善活動がすすみました。

* 当初は、ICT利活用に不安を感じた職員にも、「新しいことをチャレンジする喜び」を実感でき、事業所全体での取り組みに昇華していきました。

* 今では、AI議事録作成ツールを始め、様々なICTアプリを使用することが当たり前の雰囲気となり、支援当初と比べて、従来の紙ベース中心の運用から大きく変化していきました。



支援の“成果”

* 事業規模より、高額なICT機器購入が難しいご事情を払拭する、コストパフォーマンスを最大限活用したICT利活用の取り組みとして注視しています。

* また小規模の事業所の特徴として、一度改善活動が上手に始めると、改善効果が即実感できる点については、同様の事業規模の他事業所様に励みになるのでは？と感じています。

* またICTありきではなく、「残すべきアナログ運用も大切にする」「ついていけない職員が出ないように、全員でフォローする体制が必要」など、職員の「働きがい」「働きやすさ」も意識した職場環境改善にも繋がっていると捉えています。ちょっとしたきっかけで大きくICT利活用がすすんだ事例として参考になりますと幸いです。



支援に対する事業所の感想

* 初めは知識もなく、何に困っているかもわからない状況でしたが、展示会に行ったり勉強会を紹介していただいたりしながらイメージをしていくことができました。

* 大きく変えようとせず、小さなことからゆっくり少しずつでいいという先生からのアドバイスもあり、スタッフの理解、納得も早かったと思います。

* 拒否反応を示すスタッフも一部いますが、多くのスタッフは、アナログで紙だけの事業所がようやく今の時代に沿って変化できるという期待感を持っています。何を取り入れ、何を残すかを話し合いながら、できるところから業務改善を進めています。

